

講演会
保育付

「武蔵野市らしさを活かした生涯学習事業」(平成24年度武蔵野市プロポーザル委託事業)

国木田独歩の『武蔵野』から読みとく

今 身近な自然と私たち

明治時代の自然主義文学者の国木田独歩(くにきだ・どっぽ)は、武蔵野のどのような自然にひかれたのでしょうか。そして、現代に生きる私たちが、ここ武蔵野で楽しめる自然との付き合い方は? 文学者 土屋忍先生のロマンあふれるお話からヒントがもらえるかもしれません。後半は、土屋先生と **交流(茶菓付き)の時間** を設けます。

とき: **2月9日(土)**

午後1時30分~4時00分

(午後1時開場)

ところ: **武蔵野市民会館**集会室

【武蔵境駅北口5分:裏面地図参照】

武蔵野市境2-3-7 TEL:0422-51-9144

- 定員:70名(申込順、1月15日受付開始)
- 参加費:無料
- 申込・問合せ:お名前、住所、電話番号を明記してFAXかEメール
武蔵野市生涯学習スポーツ課 (FAX:0422-51-9269、
TEL:0422-60-1902)、武蔵野の森を育てる会 (Eメール:
info.mnomori@gmail.com)

★**保育付き**:定員15名(申込順、2月2日(土)まで受付)
NPO法人保育サービスひまわりママが保育します。



講師:土屋忍氏
武蔵野大学文学部准教授

日本近現代文学を専攻。平成21年度武蔵野市寄附講座の企画立案・コーディネーター及び「独歩と太宰の武蔵野」講師。著書に『武蔵野文化を学ぶ人のために』(近刊)、『南洋文学の研究』(近刊)、『近代の夢と知性』など。



独歩の森(境山野緑地の南側雑木林)

みなさま、お待ちしております!

- ・国木田独歩を知っている人も、知らない人も
- ・子育てまっただ中の人も、そうでない人も
- ・武蔵野に長く住んでいる人も、新しい人も
- ・昔のことを知りたい人も、これからのまちを考えたい人も
- ・自然が好きな人も、イマイチという人も

主催:武蔵野の森を育てる会
武蔵野市教育委員会

国木田独歩の『武蔵野』とは？

国木田独歩(くにきだ・どっぽ)は、明治4(1871)年生まれの自然主義文学者です。『武蔵野』、『牛肉と馬鈴薯』、『酒中日記』、『運命』などが代表作。

とくに『武蔵野』は、雑木林を中心に武蔵野の新しい自然美を描いたものです。独歩は、人間の生活と融合した自然空間のすばらしさを描き、次のように表現しています。

「武蔵野を除いて日本にこのような処がどこにあるか。北海道の原野にはむろんのこと、奈須野にもない、そのほかどこにあるか。

林と野とがかくもよく入り乱れて、生活と自然とがこのやうに密接している処がどこにあるか。」(『武蔵野』より)



独歩にまつわるあれこれ

武蔵野市境には、独歩通り、独歩橋、独歩の森、国木田独歩文学碑など、独歩にまつわるスポットがたくさんあります。これら武蔵野の文化と自然を求めて遠方からの来訪者も多く、地元に住む私たちは生活のなかで大切にしていきたいものです。



国木田独歩文学碑



独歩橋(玉川上水)



独歩通り

下の地図で場所を確認できます。

市民の出会いの場「独歩の森」

市立境山野緑地のなかにあり、独歩の作品『武蔵野』にゆかりのある雑木林です。「独歩の森」と呼ばれるのは、そのためです。武蔵野の歴史と文化が感じられる貴重な自然空間で、子どもたちの自然体験、市民の散歩などに利用されています。



独歩の森での自然体験

独歩にまつわるスポットと会場の武蔵野市民会館

